

安全データシート (SDS)

1. 化学品及び会社情報

製品名 エアコン洗淨プロ505
整理番号 SDS 74-04
用途 フィン洗淨剤

会社名 : コーイング株式会社
住所 : 名古屋市中川区伏屋1-807-1
電話 : 052-431-9070 FAX : 052-431-9071
作成年月日 : 2014年 6月10日 改訂年月日 : 2016年 10月 18日

2. 危険有害性の要約

<GHS 分類>

物理化学的危険性

全ての項目において「分類対象外」もしくは「区分外」「分類できない」である。

健康に対する有害性

急性毒性 (経口)	分類できない
急性毒性 (経皮)	分類できない
急性毒性 (吸入: ガス)	分類対象外
急性毒性 (吸入: 粉じん・ミスト)	分類できない
皮膚腐食性・刺激性	区分 1A
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分 1
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	区分外
発がん性	分類できない
生殖毒性	分類できない
特定標的臓器・全身毒性 (単回ばく露)	区分 1
特定標的臓器・全身毒性 (反復ばく露)	分類できない
吸引性呼吸器有害性	分類できない

環境に対する有害性

水生環境急性有害性	分類できない
水生環境慢性有害性	分類できない

ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語: 危険

危険有害性情報

重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷
重篤な眼の損傷
呼吸器系の障害

<注意書き>

【安全対策】

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
呼吸用保護具を着用すること。
保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。
屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。
ガスを吸入しないこと。
取扱い後はよく手を洗うこと。

3. 組成・成分情報

単一製品・混合物の区別 : 混合物

含有成分及び含有量

成分名	含有量 (wt%)	CAS No.	化審法 No.
水酸化ナトリウム	1~4.9%	1310-73-2	(1)-410
水酸化カリウム	1~4.9%	1310-58-3	(1)-369
キレート剤 1	1~5%	非公開	非公開
キレート剤 2	1~5%	非公開	非公開
界面活性剤	1%未満	非公開	非公開
殺菌剤	1%未満	非公開	非公開
水	残量	7732-18-5	—

4. 応急処置

- 眼に入った場合 ・こすらず、直ちに流水で15分以上まぶたの裏まで洗眼し、すみやかに医師の手当てを受ける。コンタクトレンズ使用の場合は、固着していない限り取り外し、洗眼する。
- 皮膚に付着した場合 ・直ちに多量の水で15分以上洗い流し、痛みのある場合は医師の手当てを受ける。(衣服にかかってしみこんだ場合も同様の処置を行う)
- 飲み込んだ場合 ・直ちに口をすすぎ、コップ1~2杯の水又は牛乳を飲ませて、吐かせないで、すみやかに医師の手当てを受ける。
- 吸入した場合 ・直ちに空気の新鮮な場所に移し、安静、保温に努め、なお気分の悪い場合は速やかに医師の手当てを受ける。

5. 火災時の処置

- | | |
|------|--|
| 消火方法 | <ul style="list-style-type: none">・周辺火災の場合には、移動可能な容器は速やかに安全な場所に移す。・製品自体に引火性はない。 |
| 消火剤 | <ul style="list-style-type: none">・すべての消化剤の使用可。 |
-

6. 漏出時の措置

- ・少量の場合は、多量の水で洗い流す。
 - ・大量の場合は、できるだけ空容器に回収する。そのあとは希硫酸または希塩酸で中和し、多量の水を用いて洗い流す。この場合PH 6～8の範囲で洗い流し、濃厚な液が河川等に排出されないように注意する。
 - ・作業の際には、後述の保護具を適切に着用する。
-

7. 取扱い及び保管上の注意

- | | |
|-----|--|
| 取扱い | <ul style="list-style-type: none">・吸い込んだり、眼・皮膚・衣服等に触れないよう、保護メガネ・保護マスク・ゴム手袋・保護前掛け・保護靴等を着用する。・作業は換気の良い場所で行う。・容器を転倒させたり、落下させたり、衝撃を加えたり、引きずったりしないこと。・取扱後は身体・手・口・眼・顔をよく洗う。作業着に付着した場合は着替える。 |
| 保管 | <ul style="list-style-type: none">・容器は直射日光を避け、密閉して冷暗所に保管する。・他の品物と混合しないように保管する。 |
| 容器 | ポリエチレン製バックインボックス（ダンボール） |
-

8. 暴露防止措置

- | | |
|------|--|
| 管理濃度 | <ul style="list-style-type: none">・知見なし |
| 許容濃度 | <p>「エアコン洗淨プロ505」としては設定されていないため、組成分である水酸化ナトリウムと水酸化カリウムの設定値を記載する。</p> <ul style="list-style-type: none">・日本産業衛生学会（2007年度版）
2mg/m³ 上限値（水酸化ナトリウム）
2mg/m³ 上限値（水酸化カリウム）・ACGIH（2007年度版）
2mg/m³ 上限値（水酸化ナトリウム）（TLV-STEL）
2mg/m³ 上限値（水酸化カリウム）（TLV-STEL） |
| 設備対策 | <ul style="list-style-type: none">・全体換気設備又は局所排気設備を設置する。 |
| 保護具 | <ul style="list-style-type: none">・保護メガネ・保護マスク・ゴム手袋・保護前掛け・保護靴 |
-

9. 物理／化学的性質

- | | |
|--------|-------------|
| 外観等 | : 淡黄色透明液体 |
| 比重 | : 1.14~1.24 |
| pH(原液) | : 13.0 以上 |
| 燃焼性 | : 不燃性 |
| 臭気 | : 特異臭 |
| 水溶解性 | : 任意の割合で溶解 |

10. 安定性・反応性

- 発火点 : なし
引火点 : なし
可燃性 : なし
爆発限界 : なし
安定性 : 常温、密閉保管すれば安定である。
反応性 : 強塩基で、酸との混合で発熱する。

アルミニウム、錫、亜鉛などの金属を腐食し可燃性ガス（水素ガス）を発生する。

11. 有害情報

急性毒性 経口摂取すると口、のど、胃などが腐食される。

【参考値】 水酸化ナトリウムとして 経口 ウサギ LD50 : 6632mg/kg (計算値)

水酸化カリウムとして 経口 ラット LD50 : 5061mg/kg (計算値)

皮膚腐食性・刺激性 : 水酸化ナトリウムはヒトの皮膚に対して0.5%以上で刺激、重度の腐食を引き起こすとの記述がある。

眼に対する重篤な損傷・刺激性 :

眼に入ると結膜や角膜が腐食され、視力低下や失明することがある。

呼吸器感受性又は皮膚感受性 : データなし

生殖細胞変異原性 : 区分外

発がん性 : データなし

生殖毒性 : データなし

特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露） :

水酸化ナトリウムは、ヒト呼吸器、気道を刺激し肺水腫を引き起こすとの記述がある。また、水酸化カリウムはヒトに対して不可逆な障害があり、ウサギの試験で腐食性の記載がある。

特定標的臓器・全身毒性（反復ばく露） : データなし

吸引性呼吸器有害性 : データなし

12. 環境影響情報

水生環境急性有害性 : データなし

水生環境慢性有害性 : データなし

【参考値】 水酸化ナトリウムとして 甲殻類（ネコゼミジンコ）LC50 : 40.4mg/L/48h

13. 廃棄上の注意

産業廃棄物処理法に基づき産業廃棄物処理する。

希硫酸または希塩酸を加えて中和後放流する。

1 4. 輸送上の注意

国内規制

船舶安全法 : 危規則第3条危険物告示別表第1 腐食性物質

航空法 : 施行規則第194条危険物告示別表第1 腐食性物質

国連分類 : 8 (腐食性物質)

容器等級 : II

海洋汚染物質 : 非該当

海上規制情報 : 船舶安全法の規定に従う。

国連番号 : 1760

クラス : 8 (腐食性物質)

容器等級 : II

航空規制情報 : 航空法に従う。

クラス : 8 (腐食性物質)

容器等級 : II

指針番号 : 154

輸送の特定の安全対策及び条件

- ・ 運搬に関しては容器に漏れのない事確かめ、転倒、落下、損傷が無いように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
- ・ 栓のあるところを上にして積載する。

1 5. 適用法令

- ・ 労働安全衛生法 : 名称等を通知すべき危険物及び有害物 (法第57条の2、施行令第18条の2別表第9) 水酸化ナトリウム、水酸化カリウム
- ・ 毒物及び劇物取締法 : 非該当
- ・ 化学物質排出把握管理促進法 (P R T R法) : 非該当 (2009年10月1日改正前後共に)
- ・ 船舶安全法 : 腐食性物質
- ・ 航空法 : 腐食性物質
- ・ 港則法 : 腐食性物質
- ・ 消防法 : 非該当

1 6. その他 (引用文献等)

労働安全衛生法 MSDS 対象物質全データ 化学工業日報社

化学物質の危険・有害物便覧、厚生労働省安全衛生部監修 中央労働災害防止協会 (2000-2001)

記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、危険性、有害性の評価は必ずしも十分ではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。

なお、この情報は新しい知見に基づき予告なしに改訂されることがあります。